

# 教育と文化



男性の働き方を見直す

子育てにかける時間

● 問合先 企画政策課

男女協働推進係 ☎ 2115

『子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性』を意味する『イクメン』という言葉が、流行語大賞に選ばれてから10年がたとうとしています。その間、男性の子育て環境はどのように変化したのでしょうか。

内閣府の『平成28年社会生活基本調査』によれば、共働き夫婦と子どもの世帯における、6歳未満の子どもを持つ夫の育児時間は48分と、5年前の40分から8分増加しています。しかし、妻の育児時間が2時間49分で、5年前より17分増えていることを考えると、まだまだ女性への子育ての負担が大きいことがうかがえます。

他方で、興味深いデータがあります。総務省の『労働力調査（基本集計）』によると、週60時間以上働く男性は、平成30年において、30代で13.5割、40代で13.8割いるそうです。こちらは5年前から比べると、30代・40代ともに

3ポイント程改善されていますが、60時間以上働く女性は2.5割前後を推移していることを考えると、依然として男性は仕事で長時間拘束されるといっても差し支えないでしょう。

ちなみに、男性が父親になる平均年齢は、32歳といわれていますので、子育て世代の男性たちが、子育てにかける時間が取りづらいという、なんとも皮肉な状況ができています。

共働きが一般的となり、『男性は仕事、女性は家庭』という時代ではなくなっています。が、女性の家事や育児の時間が男性よりも長いというアンバランスは存在しています。そのことを男性の意識や資質の問題として片付けるのではなく、男性の働き方を見直すという視点で捉えることが必要ではないでしょうか。実は、今のままの社会では、男性も『つらい』のかもしれない。

## 郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ ②④

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 1262

### 和田城跡

和田城跡は、東山代町脇野字丸尾に所在し、深谷池に面した標高177.7mの山頂に立地する山城跡です。

曲輪は東西35m、南北20mの主郭のみが確認できます。主郭の西辺には高さ2mの土塁、南西隅に虎口が配され、虎口の下には堀切が設けられ、南側の堅堀と接続しています。主郭の周囲にはこのほかに、空堀や畝状堅堀、石塁などの防衛遺構が数多く残されていますが、主郭より西側は、送電鉄塔の建設に伴う造成によって失われていると考えられます。

確実な資料はありません。現存する遺構は戦国時代後半期の16世紀後半とみられ、さかのほっても15世紀以降と考えられます。

和田城跡は、市道から農道に進入して訪れることができますが、夏の時期は草木の繁茂が激しく足元が見えないので、秋以降の見学がお勧めです。



↑ 和田城跡